

## 2 ホウレンソウの作期別品種比較試験

### 試験の目的

ホウレンソウには年間を通じて栽培可能な品種がなく、播種時期に応じた品種の使い分けが必要であり、品種数が多いゆえに生産者は時期別の品種選定に苦慮しています。特に、生産者部会から試験要望のあった夏期においては立枯病及び萎凋病の発生が著しいことから、市内での栽培に適し、かつ、上述の病害が発生しにくい品種選定のための資料を得ることを目的とし、土壌病害を出やすくしたほ場での試験を行いました。

### 関係先

旭川青果物生産出荷協議会ほうれん草部会，東神楽農業協同組合ほうれん草部会

### 試験概要

#### (1) 試験作期，供試品種

No.	作期1 (7/13 播種)		作期2 (8/3 播種)	
	品種	販売元	品種	販売元
標準品種	サンホープセブン	カネコ種苗	晩抽サマースカイ	タキイ種苗
1	KAO-011	〃	KAO-011	カネコ種苗
2	SC5-423	サカタのタネ	C7-118	サカタのタネ
3	タフスカイ	タキイ種苗	タフスカイ	タキイ種苗
4	STH-059	寺岡種苗園	STH-059	寺岡種苗園
5	THS178	トーホク	THS178	トーホク
6	プリウスベータ	トキタ種苗	ジョーカーX	トキタ種苗
7	NSP-112S	ナント種苗	NSP-112S	ナント種苗
8	NSP-113S	〃	エスパータ	日本農林社
9	ビッグサマー	日本農林社	シールドプラス	〃
10	サマービクトリー	渡辺採種場	サマービクトリー7	渡辺採種場
11	NX-SP1088	渡辺農事	NX-SP1088	渡辺農事

(2) 栽植密度 条間 20 cm，株間 6 cm，8,333 株/a

(3) 使用資材 雨よけハウス，防虫ネット，天井被覆用遮光遮熱ネット(遮光率 35～40%)

(4) 評価方法

土壌病害への耐病性，晩抽性，収量性，作業性，葉色の濃さ等の特性を重視して，各品種の評価を行いました。

### 試験結果

#### (1) 概要

両作期ともに高温であり，土壌は乾燥しやすい条件だったため，生育の遅れやばらつきが両作期で見られました。

作期 1 では立枯病，萎凋病ともに全品種平均で 21%発生し，抽台する品種が多く，作

期2では抽台は少なかったものの、立枯病、萎凋病ともに全品種平均で26%発生しました。

#### (2) 作期1有望品種

「KAO-011」は、標準品種の「サンホープセブン」に比べ、病害が僅かに発生しにくく、生育がやや早く、一株重が重くなる傾向が見られたことから、代替品種として栽培適性が高いと考えられます。ただし、作期2において、「KAO-011」であっても病害が多発していることから、「サンホープセブン」の栽培で病害が多発するほ場での栽培は難しいと考えられます。



KAO-011

#### (3) 作期2有望品種

「タフスカイ」は、標準品種の「晩抽サマースカイ」に比べ、病害が非常に発生しにくく、病害が多発するほ場においても栽培適性は高いと考えられます。一方で、葉色が淡く、生育速度が早いため一株重が軽くなる傾向があり、かつ、栽培後期には抽台も発生することから、かん水を控えて生育を抑えながら栽培管理する必要があります。なお、「タフスカイ」は作期1でも病害がほとんど発生しませんでした。収穫サイズに達する前に抽台したことから、7月中の栽培はで適性がある品種とは考えられません。



タフスカイ

#### (4) その他

「THS178」は、発芽率は低かったものの、両作期で病害が非常に発生しにくく、抽台もありませんでした。種苗メーカーに確認したところ、供試した種子のロットにおいて、催芽処理が不十分だった可能性があり、改善に向けて取り組んでいるとのこと。発芽した株はその後順調に生育し、葉色が濃い上に一株重も重かったことから、発芽率が改善されることで、有望となり得る品種と考えられます。



THS178

#### (5) まとめ

本試験では簡易的に病害ほ場を再現した結果、作期2では病害が多発しました。このことから、連作ほ場においては、本試験ほ場よりも菌密度がさらに高いと思われるため、病害が発生しにくい品種への転換による対応だけでは、栽培は困難であると考えられます。そのため、品種の切替えに加え、土壌分析による適正施肥、pH矯正や土壌消毒、輪作等を組み合わせ、耕種的に病原菌密度を減らしていく必要があります。